

全国知事会議（令和3年6月10日）に係る知事コメント

（WEB会議）

会議の概要

- ・「新型コロナウイルス対策」、「デジタル社会・脱炭素社会」、「地方税財政・地方創生」等をテーマに議論。
- ・「新型コロナ感染抑制に向けた行動宣言（案）」、「ポストコロナに向けた日本再生宣言（案）」、「地方税財源の確保・充実等に関する提言（案）」等について協議。
- ・「過疎対策特別委員会」の廃止、「医師養成に係るワーキングチーム」及び「今後の教職員定数の在り方等に関する国と地方の協議の場」の設置を決定。
- ・来年度奈良県で全国知事会議を開催することを荒井知事から報告。

荒井知事の発言要旨

（新型コロナ感染症対策の効果検証）

- ・国には、これまでの知事会でもお願い申し上げてきたが、国がとってきた感染防止対策の効果をも、詳細に検証いただきたい。
- ・全国の状況を見ると、大都市とその周辺地域で感染者が多く発生している。これは大都市を震源地として、都市部から鉄道沿線等に沿って県域を越えて周辺部に拡大しているとも見られる。
- ・都道府県単位でのまん延防止等重点措置、緊急事態宣言の措置は、発生源の大都市中心の対策として効果があると思っているが、府県内で感染拡大地域とそうでない地域で同一の対策をとられている点、府県域を超える感染拡大に共通の措置がとれない点について、実効性が十分だったかどうか、不必要な面がなかったかどうかということは、都道府県単位だけの分析では不十分で、都道府県を超えたエリアごとの詳細なデータ分析、市町村単位の分析が必要と考えている。
- ・また、飲食店への時短要請や商業施設への休業要請などの経済にダメージを与える措置について、効果のあった地域となかった地域、効果のあった業種となかった業種など、詳細な効果検証を行い、それを示していただきたい。
- ・また、感染者の重症化率や死亡率が都道府県別の地域によって異なるなどその原因についても分析いただき、医療体制との関連など示していただきたい。
- ・効果のあった措置については、各地域において、今後の流行時の感染拡大防止や医療体制の確保に役立てられると思う。

(大規模広域防災拠点)

- ・国の南海トラフ地震に関する計画において、紀伊半島全体をカバーする「大規模な広域防災拠点」がないことから、奈良県では、南海トラフ地震に備えた大規模広域防災拠点を紀伊半島の中心部に位置する五條市に整備しようと検討を進めている。
- ・山形空港が東日本大震災で果たした役割を念頭に、紀伊半島全体の後方支援拠点としての機能を担う面から、輸送機の離発着が可能な 2,000m 級の滑走路を整備したいと考えている。
- ・2,000m 級滑走路を有することで、赤外線搜索監視装置を搭載した固定翼機による夜間・雨天時も含めた迅速かつ正確な情報収集が可能となり、また、大型輸送機による大量の人員・物資の輸送が実現できるなど、人命救助や避難者の生活への確実な支援により、被害を最小限に抑えることができると考えている。
- ・また、この拠点を、三重県、和歌山県と災害時に共同運用できる体制をつくっていきたいと考えている。
- ・本県のこの計画を着実に進めるため、国の南海トラフ地震に関する計画に、「大規模な広域防災拠点」として位置づけるとともに、その整備にかかる費用について、着手から完了まで、緊急防災・減災事業債を適用いただくことができるよう、国の技術的・財政的支援を、是非ともお願いしたいと考えている。

(次期開催県としてのあいさつ)

- ・本日は Web での開催となったが、三日月知事をはじめとして、滋賀県の皆様には、これまで 2 年間十分な準備を進めていただき、美しい滋賀の地に行けず大変残念ではあるが、そのご尽力に感謝を申し上げたい。
- ・滋賀県は、天智天皇の近江京があったところ。奈良県には、壬申の乱を経て近江京の後、天武天皇が 673 年に飛鳥京を創られた。
- ・来年の知事会の開催場所は、710 年に飛鳥から遷都した平城宮の近くである。会場予定地の周辺には、奈良時代の平城宮を復原した姿を現しつつある国営公園平城宮跡がある。またお越しの際には、市内の世界遺産の寺社で貴重な体験をしていただけるプログラムも用意している。奈良がもっている歴史と神の靈気に触れていただき、パワーをいただき、これから知事の皆様が、コロナ対策、地域振興に向かわれるエネルギーにさせていただけたらと考えているところ。
- ・奈良県で皆様にお目にかかれる日を心から楽しみにしている。